

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No369
(新著の紹介)

大学生の学びと成長 —知識・他者・自分との関係から人生をつくる— 河井亨先生（立命館大学スポーツ健康科学部准教授）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
＊詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。
※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



河井亨
かわい とおる

立命館大学スポーツ健康科学部・准教授

京都大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。立命館大学教育開発推進機構を経て2018年4月より現職。

2022年にポートランド州立大学にて在外研究。

単著『大学生の学びと成長—知識・他者・自分との関係から人生をつくる』（ナカニシヤ出版, 2025）,『大学生の学習ダイナミクス—授業内外のラーニング・ブリッジング』（東信堂, 2014）, 共訳書『若者のアイデンティティ形成—学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』（東信堂, 2020）など

大学生 の学び と成長

知識・他者・自分との
関係から人生をつくる

河井 亨
Toru Kawai

ナカニシヤ出版

河井亨 (2025).大学生の学びと成長—知識・他者・自分との関係から人生をつくる— ナカニシヤ出版

第1章 大学生の学びと成長

[1] 大学生の学びと成長—3つの道筋

1. 知識やスキルを学び、新しい考え方や価値観に触れて学ぶ
2. 自分とは背景の異なる人々と出会い、かかわり、関係をつくり、対話して学ぶ

3. 自分自身と向き合い、自分の人生と向き合って学び成長していく

[3] 自分で自分の学びと成長をつくりだすために

1. 気づき
2. 言語化
3. 関係づけること
4. 気づき、言語化し、関係づけることから広がる学びと成長

[4] 大学生の学びと成長を捉えるためのフレームワーク—二元論・多元論・ 関係論・コミットメント

第2章 知識との関係の成長

第3章 他者との関係の成長

第4章 自分との関係の成長

第5章 これからの学びと成長に向けて

それではご覧ください



大学生の学びと成長

Futurize.

きみの意志が、未来。

河井 亨

立命館大学 スポーツ健康科学部
教育・学修支援センター

kawai-t@fc.ritsumei.ac.jp

© Ritsumeikan Trust All Rights Reserved

本日の流れ

1. 自己紹介
2. 本書執筆に至る経緯と問い合わせ
3. 本書のポイントについて
4. 今後の展望

自己紹介

河井亭(かわいとおる)
kawai-t@fc.ritsumei.ac.jp

立命館大学スポーツ健康科学部准教授

研究テーマ：大学生の学びと成長

キーワード

- ・ 学習
- ・ リフレクション
- ・ リーダーシップ

仕事

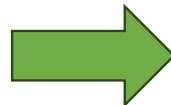
- ・ FD 科目開発 学生支援
- ・ 成長ワークショップ
- ・ 授業やゼミ



本書執筆に至る経緯と問い合わせ



河井 2014



河井 2025

正課・課外の学びの架橋
(ラーニング・ブリッジング)
の重要性

本書につながる切実な問い合わせ

- どのように学び成長できるのか
- 学びと成長にどのような意味があるのか
 - 大学生の成長の姿
 - 大学生の成長理論

『大学生の学びと成長』のポイント 学びと成長のフレームワーク（第1章）

大学生の学びと成長をどう捉えるか

1. 知識・他者・自分との関係
2. 二元論・多元論・関係論・コミットメント
という成長局面

学びと成長のフレームワーク（第1章）

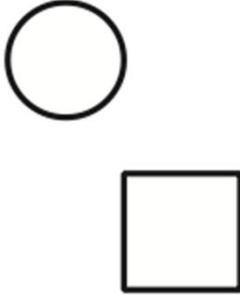
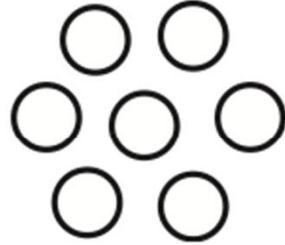
	二元論	多元論	関係論	コミットメント
				
知識	正解か不正解か	多様な知識や考えに広がっていく	複数の知識や考えを関係づけていく	関係し合った考えの中から自分の考えをつくる
他者	経験や他者とのかかわりが広がっていない	多様な経験や他者とのかかわりが広がっていく	経験や他者との複数のかかわりを関係づけていく	自分なりの他者とのかかわり方をつくる
自分	自分のことをあまり意識したり考えたりしていない	自分自身の多様な複数の側面に気づく	複数の自分を関係づけていく	自分のあり方や生き方を自分でつくっていく

図 1-1 大学生の学びと成長のフレームワーク

学びと成長のフレームワーク 移行するために大切なこと（第1章）

気づき :

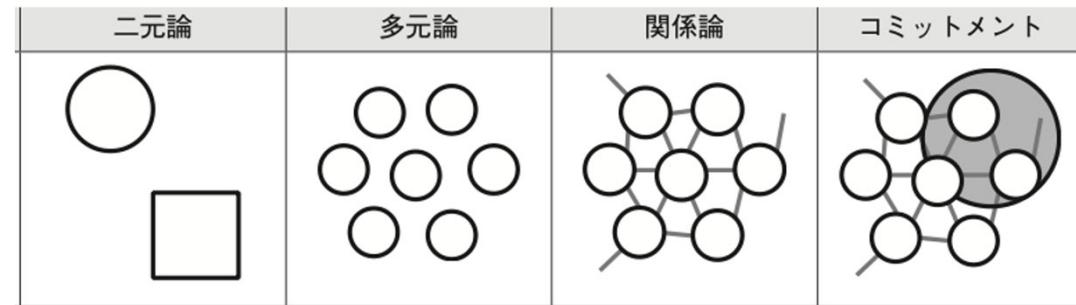
「そうか」 「なるほど」 「これいいな」

言語化 :

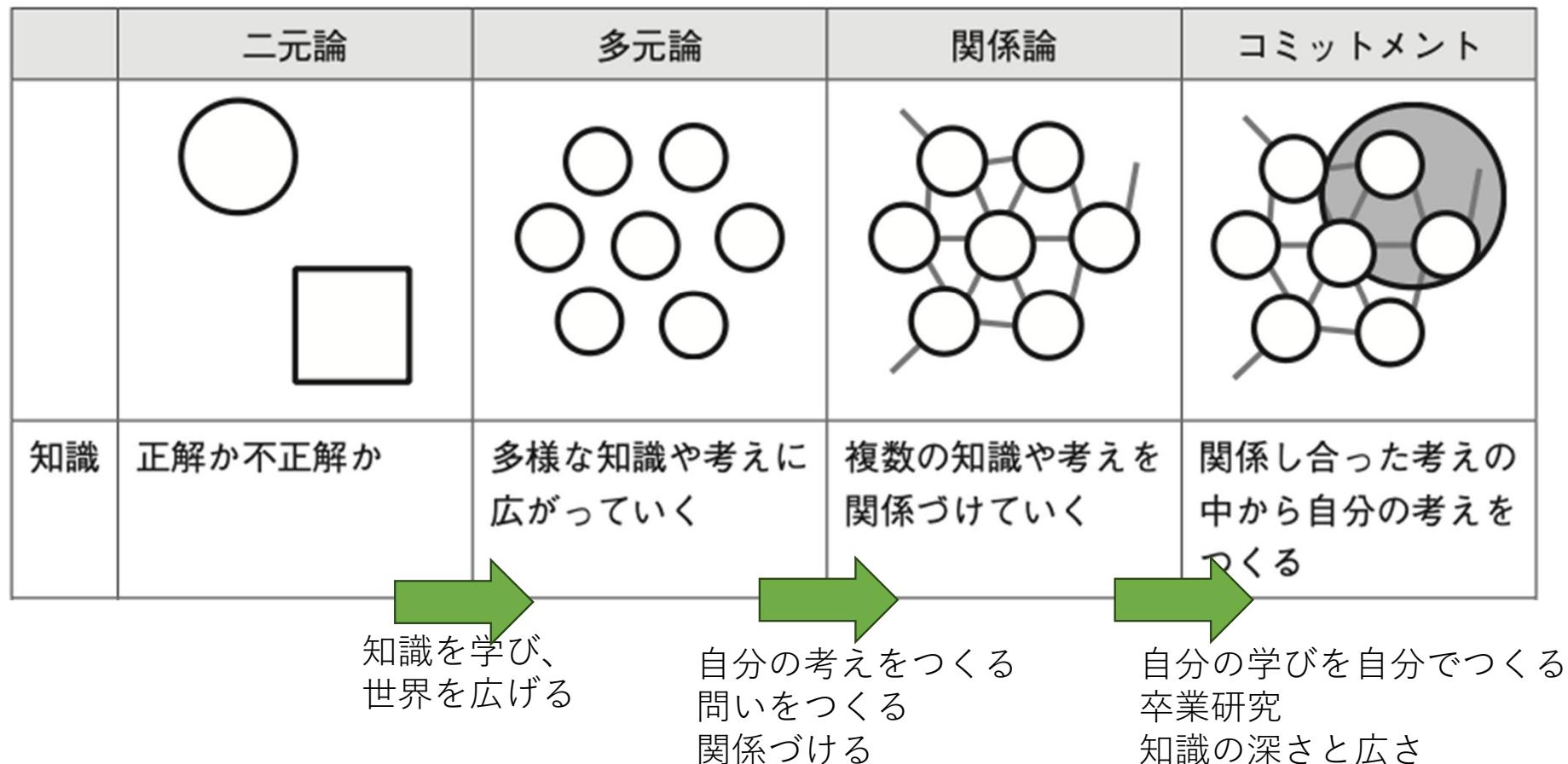
ふりかえって言葉にすること～書くこと

関係づけ :

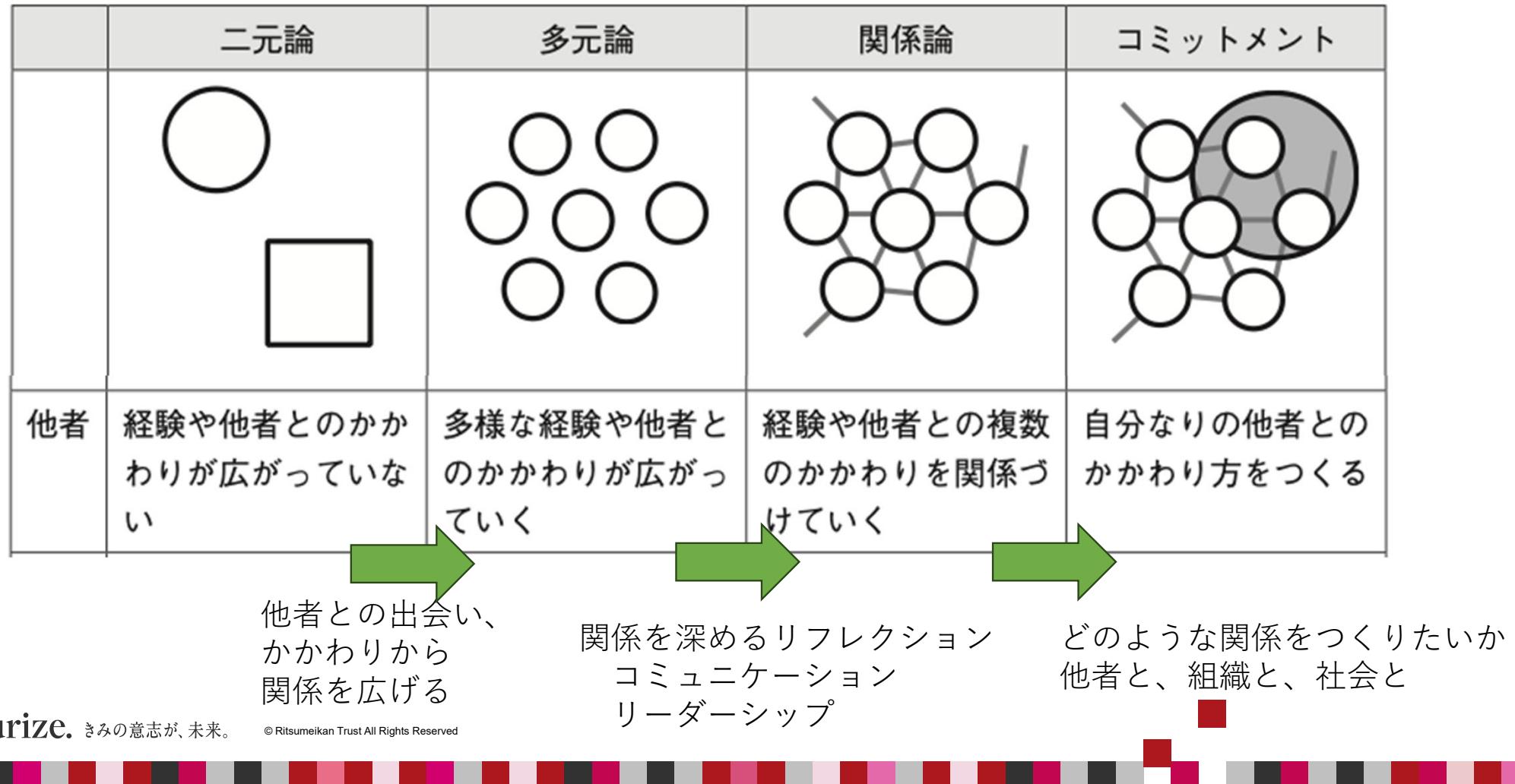
気づき、知識、経験、自分自身をつなげて考える、書く、行動する



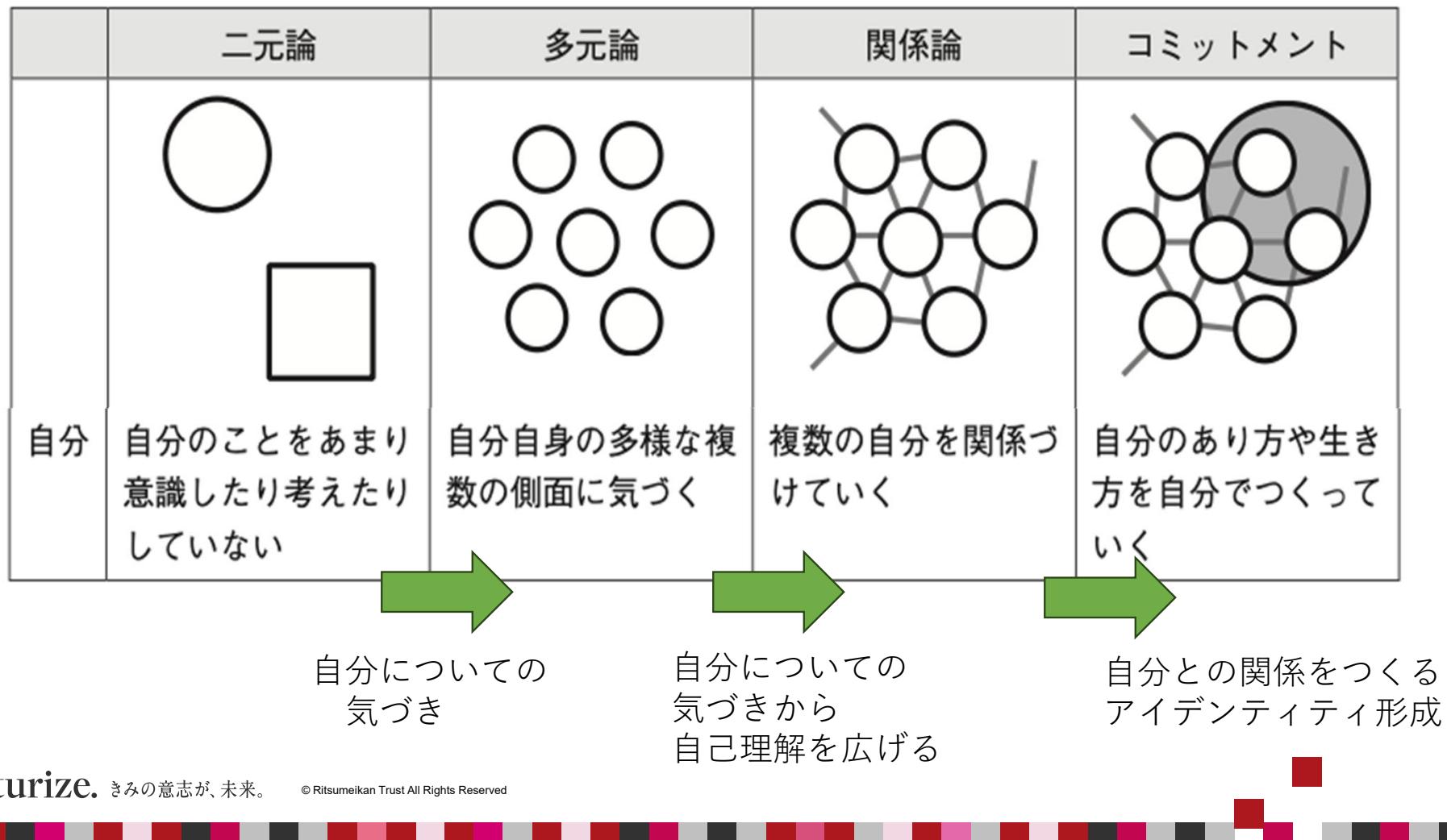
知識との関係の成長（第2章）



他者との関係の成長（第3章）



自分との関係の成長（第4章）



今後の展望

読者に向けて	今後の展望
<p>学生の方へ 「自らの学びと成長に対して、気づき、言語化し、関係づけ、自分の糧とし、次のアクションへつなげていく力」を伸ばしていってほしい</p> <p>教職員の方へ 学生の学びと成長の共通理解を一緒につくっていきたい</p>	<p>学生の方へ 自分の学びと成長、自分の人生を自分でつくりだしてほしい 自分が生きている社会と世界、時代だけでなく、さらに広く、そして未来への責任と力を</p> <p>教職員の方へ 大学の存在意義とは？ 学生の学びと成長 「学びと成長」の共通理解と実践・施策をさらに進める</p>